

感染症発生時の流れ・報告

福祉保健課 健康づくり係

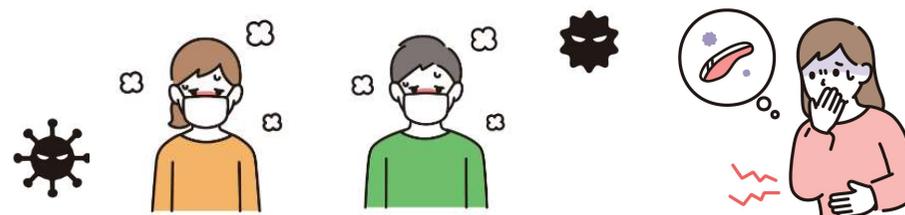
集団発生時の対応が必要な理由

- 集団生活の中では、感染症が**まん延しやすい**
例えば 同じ空間で一緒に過ごす…飛沫感染
同じ物を使う…接触感染
- 乳幼児や高齢者、その他基礎疾患を持つ者等は
感染症の**重症化リスクが高い**場合がある。



集団感染を疑うとき

- 週明け、児童の体調不良や欠席が増えた
- 発熱、鼻水の症状の子もいれば、嘔吐・下痢の子もいる
- 普段より、下痢症状の人が多い



施設における報告基準

- (1) 同一の感染症若しくは食中毒による又はそれらによると疑われる**死亡者又は重篤患者が1週間内に2人以上**発生した場合
- (2) 同一の感染症若しくは食中毒による又はそれらによると疑われる者が**10人以上又は全利用者の半数以上**※保育施設は**2割以上**発生した場合(インフルエンザ、ノロウイルス、新型コロナウイルス等)
一時期に発生した同一の感染症の累計です(その日に発生した人数ではありません)
- (3) 上記に該当しない場合があっても、通常の発生動向を上回る感染症等の発生が疑われ、**特に施設長が報告を必要と認めた**場合
- (4) 「**感染症法に定める感染症(一類～三類)及び麻疹・風しん**」については、**1人**でも発生及びその疑いのある場合

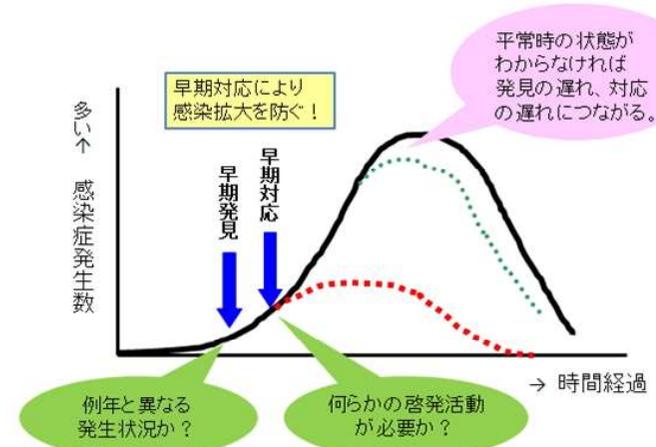
参考

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）
及び施行令(令和4.12.9 施行)

	感染症名
一類	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、
二類	急性灰白髄炎（ポリオ）、結核、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARS）、中東呼吸器症候群（MERS）鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）
三類	コレラ、細菌性赤痢、 <u>腸管出血性大腸菌感染症</u> 、腸チフス、パラチフス

(感染症発生時の報告について(通知) 子ども青少年局 令和5年5月2日発 一部抜粋)

早期対応により感染拡大を防ぐ



(神奈川県衛生研究所 図1:感染症発生状況の監視(サーベイランス)の目的)

報告の流れ (保育園)

新型コロナウイルス, インフルエンザ, ノロウイルス等

①南区福祉保健センター子ども家庭支援課 子ども家庭係へ

「**感染症等発生報告書**」をFAXで提出
※提出時に**必ず電話**をお願いします※

南福祉保健センター子ども家庭支援課
電話:045-341-1149 FAX:045-341-1145

②子ども家庭支援課から福祉保健課へ転送



感染症等発生報告書の記載例

書き方のポイント

感染症等発生報告書 (初・再第号)

発受信月日: 令和1年8月9日(金) 9時40分

病名: **胃腸炎**

代表者名: **みなみ保育園** (職員 50人, 在籍数 22人, 計 72人)

住所: **南区浦舟町**

発生月日: 令和1年8月7日(水)

再報告日(再報告の際に記入): 令和 年 月 日 ()

年齢児	1階待合室			2階都立			職員	計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児		
在籍数	3	6	6	12	11	12	22	72
欠席数	0	1	1	0	6(3)	8(5)	2(2)	18(10)
患者数	0	0	1	2	5	6	3	17

発生状況: 1 発熱(37.5℃) 4 咳 7 腹痛
2 頭痛 5 咽頭痛 8 嘔吐
3 倦怠感 6 下痢

※具体的な症状
8月5日から4、5オクラスで熱と嘔吐で休みが増えた。登園している園児も便が緩い。
5才児の一人が病院の検査でノロウイルスと言われた

備考: 8月3日、お昼寝後、4才児クラスで嘔吐あり。

備考	8月3日、お昼寝後、4才児クラスで嘔吐あり。
検査対象者	施設内嘔吐の情報等、感染が広まったと思えるエピソードがあったら記載してください
検査内容及び検体	
検体提出日	令和 年 月 日 ()
決定月日	令和 年 月 日 ()
検査結果	
保護者対応	8日11時 保護者に一斉メールで胃腸炎症状が増えたことをお知らせ。園入口に掲示。
日誌	
保護者対応	
日誌	
報告発表	

感染症の調査時に確認したい項目(1)

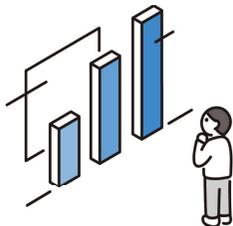
① 初発の人の発症から調査時までの経過

- ・発症日時、嘔吐・下痢した場所
- ・発熱や他の症状の有無
- ・受診の有無と診断内容や投薬の内容
- ・施設利用状況

② 他に発症している人の有無と経過

③ 職員の体調、業務担当

- ・定期検便検査の実施日とその結果



感染症の調査時に確認したい項目(2)

④ 吐物・汚物の処理状況、消毒の有無

- ・消毒は何を使ったか、その方法

⑤ 施設内見取り図

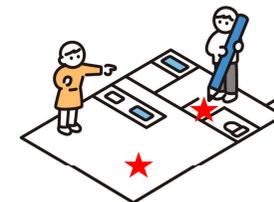
- ・嘔吐した場所や職員の動線の確認
- ・発症者の位置的な偏り
(近い部屋の人、トイレ利用が一緒、等)

⑥ 献立表

- ・食中毒の可能性も視野に入れる

⑦ 行事予定表

- ・行事で食べ物を作ったりしていないか



感染症情報について

横浜市感染症情報センター

最新の感染症流行情報を掲載しています。
流行情報の把握や情報発信にぜひご活用ください。



【社会福祉施設・保育施設等関係者向け】

感染症に関する資料について

感染症対策の参考になるサイトや動画をまとめておりますので
施設内での研修や感染症発生時にぜひご活用ください。



結核について

結核は昔の病気ではありません！

1950年代、結核は「亡国病」と恐れられていましたが医療の進歩や栄養状態などが良くなるにつれ「薬を飲めば治る病気」になりました。

しかし、日本では今でも**1年間に1万人以上**結核を発病しています。
結核を発病した人の約4割が80歳以上の高齢者で、約1割が外国生まれの患者です。

感染経路・発病について

結核を発病している人がした、せきやくしゃみのしぶきに含まれる菌が空気中に飛び散り、それを吸い込むことで感染します。（空気感染）

感染してもすべての人が発病する訳ではありません。健康であれば免疫の働きで結核菌を抑え込みますが、加齢や病気で免疫力が落ちると、結核菌が活動をはじめ、発病することがあります。

結核とは

結核菌によって主に肺に炎症が起きる病気です。

最初は風邪に似た症状で始まりますが、痰のからむ「咳」「微熱」「**身体のだるさ**」が2週間以上続いている場合は早めの受診が大切です。

「体重減少」「食欲低下」「寝汗をかく」などの症状も注意が必要です。

高齢者は症状が無くても毎年胸部X線検査を受けましょう。



治療について

早期に発見して治療すれば治る病気です。

しかし、症状がなくなったからといって治療の途中で服薬などをやめてはいけません。菌が抵抗力をつけ、薬が効かなくなってしまう可能性があります。



予防について

健康的な生活が免疫力を高め、予防につながります。
早期発見は重症化を防ぎ、周囲への感染も予防します。

- ①適度な運動
- ②十分な睡眠
- ③バランスの良い食事
- ④たばこを吸わない
- ⑤定期的な健診

抵抗力の弱い赤ちゃんは
重症になりやすく、
予防にはBCG接種が有効です。



福祉保健センターの取り組みについて

- ①病気について正しく理解し、早く回復できるよう服薬支援を行います。
- ②**関係機関**と協力して治療を見守ります。
- ③公費負担についてご案内します。
- ④結核に関するご相談を受けます。
- ⑤**接触者や感染源の調査**を行います。
- ⑥結核予防啓発を行います。



参考：介護職のあなたにこれだけは知ってほしい結核のこと



QRコードから見るすることができます。



最後に

結核を早期に発見し、早期に治療を開始することで、感染拡大の防止にもつながり、自分自身や周りの人々を守ることができます。

定期的に健診を受け、気になる症状がある際は早めに受診することが大切です。



出典

国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)令和4年度助成、再発感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業、
課題管理番号:JP22H0108127の実績を受けて作成しました。
題名:「結核感染拡大を抑制する人知能内臓器診断に関する研究」の知能内臓器診断「商業中心」手段と支援の強化に関する研究。